スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県湯浅町
（連携：広川町）

自 治 体 名 ： 和歌山県湯浅町
担 当 課 名 ： 教育委員会　学校教育係
電 話 番 号 ： 0737-63-1111

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	20.8㎢
人口	10,504人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	267人
部活動数 （運動部活動のみ）	15部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

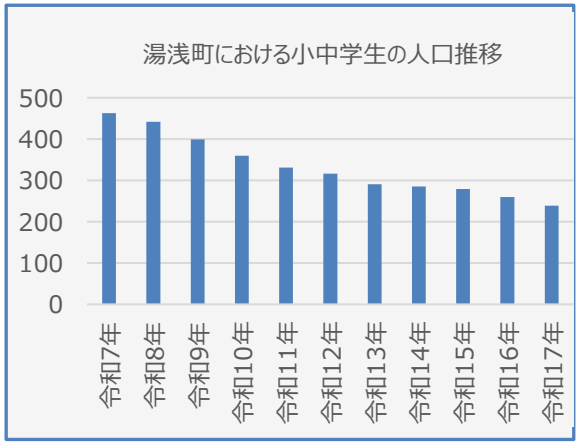
湯浅町は1町1中の学校配置であり、令和7年度の湯浅中学校は全校生徒267名の中規模校として運営されている。部活動は文化・スポーツ合わせて15種目が設置されており、生徒は多様な活動に参加できる環境が整っている。また、町外には硬式野球やバドミントンなど、中学生が加入可能な地域スポーツ団体も一定数存在している。しかし、本町の部活動改革を進めるうえでは、主に二つの課題が顕在化している。

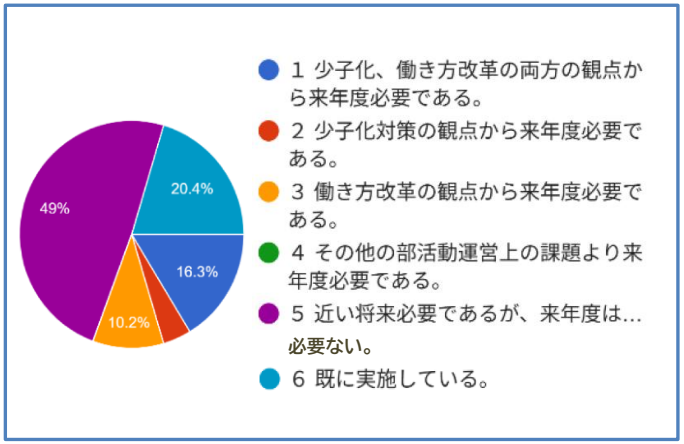
第一の課題は、少子化に伴う活動環境の縮小である。令和17年度には湯浅中学校の生徒数が現在より100名以上減少し、約160名規模になることが見込まれている。有田地方全体でも令和15年度に生徒数が約30%減少すると推計されており、湯浅町単独では約45%という大幅な減少率が示されている。生徒数・教員数の減少は部活動の維持を困難にし、特に団体競技を中心に活動の継続が危ぶまれる状況である。結果として、生徒が選択できる種目が減少し、将来の体験活動の保障が難しくなることが懸念される。実際、湯浅町・広川町の教職員の約30%が少子化対策もしくは働き方改革の観点から部活動の地域移行等の対策が必要であると回答しており、現場でも危機感が共有されつつある。

第二の課題は、地域人材の確保が極めて困難である点である。湯浅町は地理的に小規模であり、町内の人材のみで全ての種目の指導者を確保することは構造的に難しい。指導者が十分に育成されていないことに加え、中学校体育連盟主催の大会に参加できる団体がないため、現状では中学生の受け皿として機能していない。

また、体育協会に登録されている団体の中にも、中学生の体験活動を受け入れる意思や体制が整っている団体はまだ少なく、地域側の受け皿づくりが十分に進んでいない。

以上のように、湯浅町では少子化による活動環境の縮小と地域人材の不足が同時に進行しており、町単独での部活動維持には限界が見え始めている。今後は、有田地方全体での広域的な連携や、地域クラブの育成・指導者確保の仕組みづくりなど、持続可能な活動環境を構築するための取り組みが求められる。



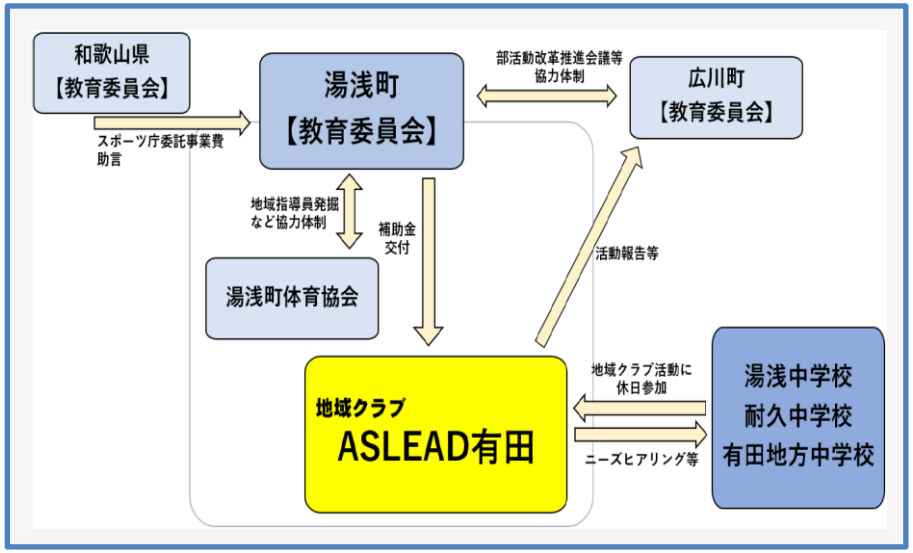


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・地域クラブASLEAD有田の事務局を置き、各中学校や地域における各部署との会議の連絡および調整や、指導員の地域人材の発掘などおける事業のコーディネートを行う。

◉首長部局

・地域クラブASLEAD有田の地域における周知活動や地域人材発掘における広報活動に協力する。

・補助金交付などの調整を行う。

年間の事業スケジュール

ASLEAD有田年間スケジュール

令和7年5月	ASLEAD有田総会の開催
令和7年6月	ASLEAD有田第1回理事会の開催
令和7年7月	中体連主催大会出場
令和7年9月	企業・大学と連携した練習会の開催
令和7年10月	ASLEAD有田第2回理事会の開催
令和7年11月	小学校5、6年生・二町の教職員を対象にしたアンケート調査の実施 公式ホームページ開設
令和8年1月	小学5・6年生を対象にした体験会の開催
令和8年2月	ASLEAD有田第2回総会の開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		5クラブ（5部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	3人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ASLEAD有田バスケットボール部	教育委員会設立の地域スポーツクラブ	バスケットボール部	・平日0回 ・休日5回	【練習】 9:00～ 12:00 【大会・練習試合】終日	中1：9名 中2：13名 中3：21名	年間	7人	2人	なし	中体連：地域クラブ
ASLEAD有田剣道部	教育委員会設立の地域スポーツクラブ	剣道部	・平日0回 ・休日5回	【練習】 9:00～ 12:00 【大会・練習試合】終日	中1：4名 中2：6名 中3：5名	年間	7人	2人	なし	中体連：地域クラブ
ASLEAD有田軟式野球部	教育委員会設立の地域スポーツクラブ	軟式野球部	・平日0回 ・休日5回	【練習】 9:00～ 12:00 【大会・練習試合】終日	中1：6名 中2：6名 中3：5名	年間	6人	1人	なし	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

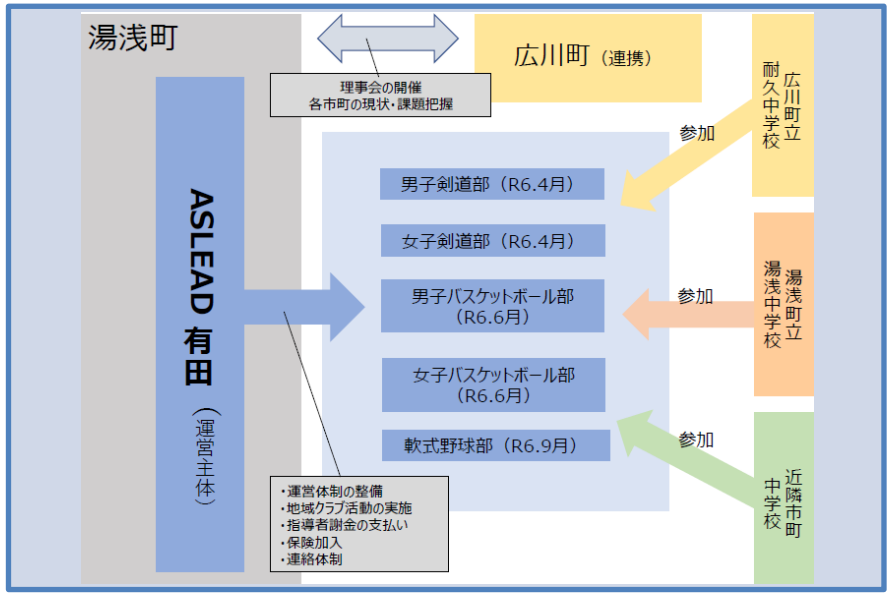
スポーツ庁

主な取組例

●地域クラブ　ASLEAD有田　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール部・剣道部・野球部
運営団体名	ASLEAD有田
期間と日数	バスケットボール：年間通じて月5回程度 剣道：年間通じて月5回程度 野球：年間を通じて月5回程度
指導者の主な属性	小中高教職員、役場職員、消防職員等
活動場所	中学校、湯浅町・広川町公共施設
主な移動手段	徒歩、湯浅町・広川町公共施設
1人あたりの参加会費等（年額）	参加費なし（遠征費等別途）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり　：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●理事会12名

役割：教育委員会・体育協会を中心にクラブ運営および管理を行う。

●代表指導員3名

役割：各種目の地域クラブ活動における代表として、生徒への指導を行う。

●指導員20名

役割：各種目の地域クラブ活動において、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

地域クラブ「ASLEAD有田」の事務局を湯浅町教育委員会内に設置し、事務局は総会・理事会の開催をコーディネートした。これらの会議には、広川町を含む両教育委員会の教育長や指導主事、体育協会委員を招集し、規約の改廃、事業計画や予算の承認、地域人材の発掘、新たに地域移行が可能な文化・スポーツ種目の検討、指導員の資質向上を図る研修など、多岐にわたる協議を行った。

また、生徒・保護者の合意形成を得るために保護者説明会を行ったり、中学校体育連盟主催大会に出場できるよう、地域クラブとしての参加申請を行ったりした。

コーディネーターは、学校教育としての部活動と、社会教育としての地域クラブ活動をつなぐ立場として、教育委員会指導主事が担った。指導主事は事務局としても機能し、関係機関との連絡調整、収支予算の管理、バスの手配など、運営に必要な事務作業を兼務しながら、地域クラブ活動の基盤づくりを主導した。



ASLEAD有田ホームページ



長野県南佐久郡への視察の様子

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

地域クラブ「ASLEAD有田」では、活動内容を地域に広く周知し、保護者・地域住民・関係機関との連携を強化するため、専用のホームページを立ち上げた。このホームページは、クラブの理念や活動方針、種目ごとの概要、活動報告、ガイドライン、支援のお願いなど、多様な情報を一元的に掲載する場として機能している。特に、活動報告や最新のお知らせを随時更新することで、地域の人々がクラブの取り組みをリアルタイムで把握できる環境を整えた。

運営の効率化を目的とした先進地域視察の実施

地域クラブ活動の持続可能な運営体制を構築するため、先進地域への視察を実施した。視察では、地域クラブの組織運営、指導者の確保方法、行政と地域団体の役割分担、財源確保の仕組みなど、実際に成果を上げている地域の取り組みを直接学ぶ機会となった。特に、地域住民・学校・行政が連携しながら地域クラブを支える体制づくりや、地域の実情に応じた柔軟な運営方法など、湯浅町が今後取り入れるべき具体的な視点を得ることができた。また、視察を通じて、クラブ運営における事務局機能の重要性や、指導者育成の体系化、地域人材の発掘方法など、持続可能な組織づくりに必要な要素を整理することができた。これにより、「ASLEAD有田」の組織の在り方を検討する際の基盤が強化され、より充実した活動を実現するための方向性が明確になった。視察で得た知見は、今後の事業計画や研修内容の改善にも活かされ、地域クラブ活動の質向上に寄与するものとなっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

本事業では、小規模地域の特性を踏まえ、まず学校教員が中心となって活動を支えながら、徐々に地域指導者へ移行する段階的な仕組みを構築した。都市部のように大規模な人材募集が難しい地域であるため、学校や地域関係者が指導者を推薦する方式を採用し、結果として一定の質を備えた指導者を安定的に確保することができた。また、小学校教員や高等学校教員など、多様な人材が兼職・兼業として参画し、専門性と地域性を両立した指導体制が形成された。さらに、全種目を対象とした講習会を実施したことで、指導者と会員双方の意欲向上やスキルアップにつながった。

指導者研修の内容

研修名	実力発揮のためのメンタルトレーニング
講師	大阪体育大学教授　土屋　裕睦
研修内容	この講習会では、まず自分のやる気や心の状態を振り返り、挨拶や簡単なワークを通して気持ちの変化に気づくことからスタートした。続いて、集中力・チームワーク・リラックスといった心の状態がパフォーマンスにどのように影響するかを体験を通して理解することができた。これらの学びは会員のやる気向上に役立つだけでなく、指導者がどのような声かけや関わり方をすればよいかを考える大きな示唆となり、非常に有意義な講習会となった。

指導者研修受講者の声

●参加者の声（指導員）

講習会では、実際のプロアスリートへのメンタル支援の事例や映像を交えながら、体験的に学べる内容を提供していただき、とても楽しく参加することができた。

自分は学校の先生ではないため、これまで子どもたちへの声かけに難しさを感じていたが、今回の講習を通して、子どもたちがより前向きにスポーツに取り組めるような関わり方のヒントを得ることができた。今後は、学んだことを活かしながら、子どもたちのやる気を引き出す声かけをさらに磨いていきたい。



●参加者の声（会員）

参加者①

先生のお話を聞いて、始めはメンタルに自信がなかったけど、明るく考えると不安になることもなかったので、これからは明るい未来を想像しながら試合に挑戦していていきたいと思いました。話が聞けて良かったです！

参加者②

気持ち次第でやる気は変わるとわかったので明日の練習試合から自分たちで声をかけあって盛り上げていきたい。緊張しているときは、教えてもらった深呼吸などのリラックス方法を試していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

本町では、地域クラブ活動の指導者の質を高めるため、指導者ライセンス取得にかかる初期費用を支援し、資格取得を積極的に後押ししている。今年度は1名がコーチライセンスD級からC級に更新（支出16,500円）することができた。しかし、現状ではライセンス保持者がまだ十分とは言えないため、指導者が経済的負担を感じずにコーチ及び審判員ライセンスの講習や研修へ参加できる環境を整え、より多くの指導者が資格取得に挑戦できるよう取り組みを強化している。これにより、地域全体の指導力向上と、子どもたちが安心して質の高い指導を受けられる体制づくりを進めている。

〇ライセンス保有者について

指導者総数	20人
資格所持指導者数	3人
本年度資格を取得した指導者（上級への移行）	1人

平日・休日の一貫指導に関する取組

地域クラブ活動の運営を効率化し、指導者の負担を軽減するため、本町では「部活アプリ」を活用したデジタル化を進めている。このアプリにより、指導者は練習日程や会場、持ち物などの情報を一元的に管理でき、変更が生じた際も迅速に生徒・保護者へ共有できるようになった。従来の紙配布や個別連絡に比べ、情報伝達にかかる手間が大幅に削減されている。また、生徒の出欠状況や活動記録、個別の目標設定をアプリ上で管理できるため、指導者は生徒一人ひとりの成長を継続的に把握しやすくなった。保護者も活動状況を随時確認できることから、地域クラブへの理解と協力が得やすくなるという効果も生まれている。さらに、指導者同士が練習内容や指導方針を共有できる仕組みが整ったことで、地域全体で指導力を高める環境づくりにもつながっている。加えて、休日の活動には原則として学校教員が最低一名は帯同するため、地域指導員との連携や情報共有が円滑に進み、学校と地域が協働して子どもたちを支える体制の強化にもつながっている。

〇ASFEELの『部活アプリ』の活用



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

本町では、地域クラブ活動の技術力向上と地域連携の強化を図るため、各種目において企業や大学と連携した事業を積極的に展開した。剣道部では大阪体育大学剣道部のコーチを招へいし、専門的な技術講習会を実施した。バスケットボール部では、男子が京都産業大学のコーチ、女子が地元企業である紀陽銀行と連携したバスケットボールクリニックを開催した。また、野球部は和歌山大学硬式野球部との合同練習会を行い、主体的に競技へ取り組む姿勢や考え方を学ぶ貴重な機会となった。

これらの取り組みにより、会員の技術力や意欲が大きく向上しただけでなく、指導員にとっても新たな指導方法や視点を得られる学びの場となった。大学や企業との協働は、地域全体で子どもたちを育てる体制づくりにもつながり、今後のクラブ活動の発展に向けた重要な基盤となっている。

取組後の会員の声

剣道部会員

触刃の間で、120%声を出すこと。前後だけの攻めだけじゃなくて、左右にも足を動かす。面小手だと、面をたくさんせめてから打ったり、相手が一本とって守りに入っている時に打つなど、具体的に見本を見せてくれながらおしえてくれたのでとても分かりやすかったです。

バスケットボールクリニックを通して

中野コーチは、常にMAXで練習に取り組むことが大事だということを強調していました。ハンドリングやパスも失敗するくらいMAXで取り組むことが上達する秘訣だと教えてくれたので、その考え方で練習に取り組んでいきたいと思いました。

和歌山大学との合同練習を終えて

大学生は、コーチが教えてくれるというより、自分たちでメニューを考え、バッティングやキャッチングに対しても、気を付けているポイントがたくさんあり、すごく勉強になった。大学生のように野球に詳しくなったらもっと楽しめるように感じた。


和歌山大学との合同練習会


大阪体育大学コーチによる講習会


紀陽銀行のバスケットボールクリニック

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

本町では、少子化に伴う部活動の存続困難という課題に対応するため、近隣の広川町と連携し、部活動の地域展開を進めている。単独校では部員数が不足し、競技として成立しない種目が増えていたが、複数校・複数自治体での合同チーム編成により、活動機会の確保と競技力の維持が可能となった。また、二町の生徒が一緒に活動することで、学校の枠を超えた新たな人間関係が生まれ、協働的な学びが促進されている。

取組の成果

- 各町が主催する町のマラソン大会や駅伝大会にも地域クラブとして参加でき、中学生の参加が地域のイベントを盛り上げる一助となった。
- 二町の強みを生かして、両町の公共施設を使用することができたため、会員の活動場所が十分確保された。
- 寄附についても二町の企業から支援をいただくことができた。


寄附・寄贈をいただきました
温かいご支援をありがとうございます
中学校部活動地域移行事業協力金
●企業
有限会社 竹井衛生 様
湯浅環境 株式会社 様
西岡精苗園 株式会社 様
●個人
寄附金は、ユニフォームの購入や大会参加の費用等の地域クラブ活動費に活用させていただきました。

【湯浅町の広報誌で寄附のお礼を掲載】

今後の取組における課題

これまで広川町と連携し、少子化により単独校では維持が難しくなった部活動を合同で運営することで、生徒の競技機会を確保してきた。二町による連携は、人数不足による大会出場の困難を解消し、他校の生徒との交流を生み出すなど一定の成果を上げている。しかし、少子化の進行は今後さらに加速することが見込まれ、二町のみでの合同チームでは、将来的に競技として成立する人数を安定的に確保することが難しくなる可能性が高い。本町としては、二町連携をさらに発展させ、より広い範囲での広域的な部活動の地域展開を進めていく必要がある。具体的には、複数自治体が協力し、それぞれの地域が担当する種目を分担することで、生徒が遠方まで移動しなくても、近隣で多様な種目に参加できる環境を整える仕組みが求められる。

課題への対応方針

来年度からは、湯浅町・広川町の指導主事に加え、有田川町の指導主事にも参加を依頼し、三町による「地域展開連絡協議会」を開催する予定である。
また、有田市にもオブザーバーとして参画を求め、広域での活動の在り方について意見交換を行いながら、将来的な連携の可能性を探っていく。これにより、地域全体で課題を共有し、持続可能な運営体制の構築に向けた協議を進めることができる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

本町では、地域クラブ活動の内容をより充実させるため、小学生を対象とした体験事業や競技機会の拡大に取り組んだ。全種目で小学校5・6年生を対象とした体験会と保護者説明会を実施し、地域クラブの活動内容を広く知ってもらう機会を設けた。特に野球部では、小学生体験を定期的に開催し、活動の周知を図るとともに、異年齢での関わりを通して会員の成長にもつながる取り組みとなった。

また、バスケットボール部では、試合に出る機会が少ない1年生のために独自の試合機会を設定し、県外チームとの対戦を含め、より良い環境で活躍できる場を確保した。さらに、試合だけでなく、チーム間の交流を目的としたシューティングゲームなども実施し、バスケットボールを通じた交流の輪を広げることができた。これらの取り組みにより、会員の意欲向上や競技力の向上に寄与しただけでなく、地域全体で子どもたちを育てる環境づくりにもつながり、活動内容のさらなる充実を図ることができた。



軟式野球部による小学生体験会





公式の試合だけではなく、1年生の試合やシューティングゲームで他のチームと交流を広げる選手たち



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

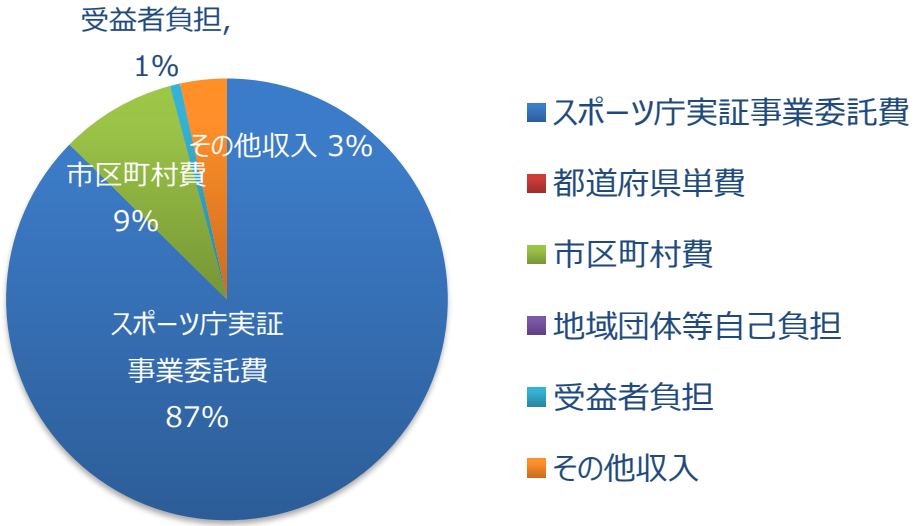
スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

本町の地域展開における収支構造を見ると、スポーツ庁の委託事業費が全体の約84%を占めており、国費への依存度が非常に高い状況にある。一方で、市町村からの補助や寄附による収入の仕組みが徐々に整いつつあり、財源の多様化が進み始めている。今後は、こうした外部支援に加えて、受益者負担の在り方についても検討し、持続可能な運営体制を構築していく必要がある。令和6年度および令和7年度については、国からの委託金により、会員の活動費を補助することができ、事業運営の安定化に寄与した。国費依存からの段階的な脱却に向けて検討していきたい。



●収入「金額（円）」

項目	費用	割合
都道府県委託料	7,059,400	87%
市区町村費 （湯浅町・広川町の 全中学生数に応じて按分）	685,600	9%
受益者負担	60,000	1%
その他収入	275,000	3%
合計	8,080,000	

●支出「金額（円）」

項目		費用	割合
地域クラブ運営費・活動費			
	人件費・賃金	5,232,210	65%
	諸謝金	66,000	1%
	旅費・交通費	121,027	2%
	借料及び損料	927,057	11%
	消耗品費	598,590	7%
	会議費	0	0%
	印刷製本費	0	0%
	通信運搬費	0	0%
	雑役務費	124,360	2%
	保険料	100,650	1%
	その他	910,106	11%
合計		8,080,000	—

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度、湯浅町では、少子化による部活動の縮小や指導者不足といった課題に対応するため、地域クラブ「ASLEAD有田」を中心とした地域展開の実証を進めた。

教育委員会内に事務局を設置し、総会・理事会の運営、指導者の発掘、予算管理、バス手配など、地域クラブ運営に必要な機能を行政が一体的に担う体制を整備した。バスケットボール（男・女）、剣道（男・女）、軟式野球の５種目では、湯浅町・広川町双方の施設を活用しながら年間を通じて安定した活動を実施し、中体連大会や各種協会主催大会への参加など、年間の活動サイクルが概ね確立してきた。特に今年度は、会員および指導者双方の「充実感の向上」を重点に据え、指導者数の確保によるきめ細かな指導や、試合経験の拡大に取り組んだ。これらの取組を地域に積極的に発信したことで、地域クラブの魅力が広く認知され、来年度以降の会員・指導者の確保、新たな種目の拡充、さらには広域的な地域展開につながる見通しを持つことができた。

連携面では、大阪体育大学・京都産業大学・紀陽銀行などとの協働により、専門的な技術指導や合同練習会を実施し、生徒の技術向上と指導者の学びの機会を創出した。こうした外部連携は、地域クラブの価値向上に加え、地域内外の多様な主体とのつながりを広げる契機となった。

一方で、指導者確保については、多様な兼職・兼業の仕組みが整いつつあるものの、事務的業務が教育委員会担当に集中するなど、運営面での分業体制や効率化の仕組みづくりが今後の課題として残った。持続可能な運営体制を構築するためには、事務局機能の分散やデジタル化の推進、関係団体との役割分担の明確化など、運営システム全体の再設計が求められる。

●成果の評価

今年度は、来年度以降の本格的な平日運用に向けた「準備段階」と位置づけ、休日中心の活動を通じて地域クラブの基盤整備を進めてきた。休日の活動では、指導者配置や活動場所の確保、試合機会の創出など、地域展開として必要な運営要素が概ね機能し、一定の成果が確認できた。これらの成果は、来年度の平日展開に向けた重要なステップであり、実証として評価できるものである。

一方で、平日運用に向けては、指導者の量的確保や地域展開の認知度向上が引き続き大きな課題として明確になった。特に、平日夕方の活動を安定的に実施するためには、教員以外の地域人材の発掘・育成が不可欠であり、兼職・兼業制度の活用や、地域団体との連携強化が求められる。

今年度は、小学校での保護者説明会や新入生保護者説明会を実施し、地域クラブの意義や活動内容を丁寧に伝えてきたが、結果として新たな種目の拡充には至らなかった。今後は、学校側との連携をさらに強化し、特に管理職を組織のメンバーとして位置づけることで、学校との情報共有や意思決定のスピードを高め、種目拡充に向けた環境整備を進めていく必要がある。

●今後に向けて

今年度は休日中心の活動を通じて運営基盤を整えた「準備段階」と位置づけられ、来年度はその成果を踏まえた本格的な平日展開に移行する重要な年となる。

3年目となる来年度は、立ち上げ段階の組織から、より実用的で持続可能な組織へと再編することが求められる。特に、平日運用を安定させるためには、教員以外の地域人材の発掘・育成を進め、兼職・兼業制度の活用を含めた指導者確保の仕組みを強化する必要がある。また、地域展開の認知度をさらに高めるため、保護者説明会や学校との連携を通じた広報を継続的に行い、地域全体でクラブを支える機運を高めていくことが重要である。

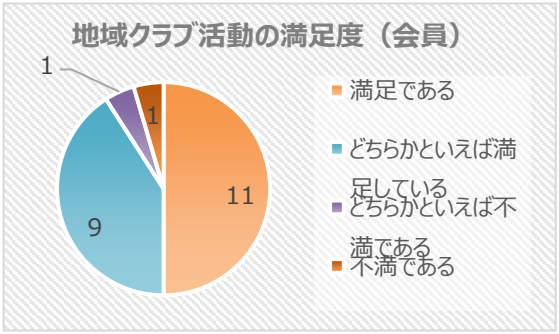
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

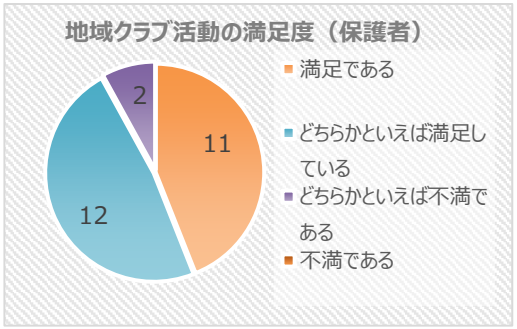
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（会員と保護者の満足度について）

Q.地域クラブ活動に対する満足度を教えてください。（回答22名）



Q.お子さんが通っている地域クラブ活動に対する満足度を教えてください。（回答25名）



●参加者/関係者の声

参加者/会員

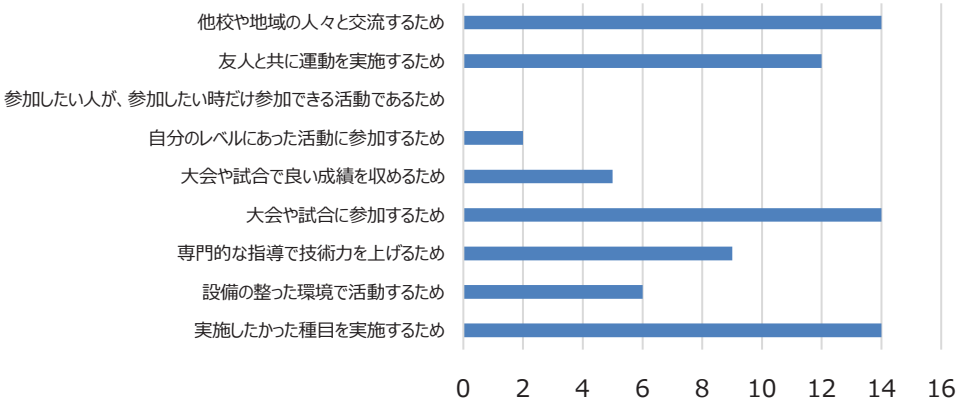
たくさんの仲間とスポーツを楽しめることが一番の良さだと思います。交流も広がり、地域クラブ以外でも一緒に遊んだりしています。仲間と共に最後の大会に向けて自分をしっかり鍛えていきたいです。

参加者/指導員（地域の指導者）

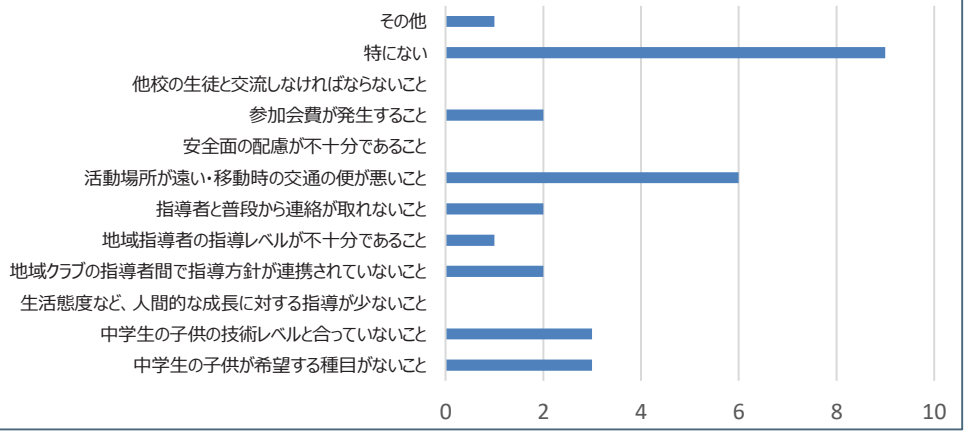
以前小学生を教えていた経験があったが、より専門的な指導をしたいと思い、指導員を希望した。子ども達を教えるのが楽しく、地域クラブを通して子ども達の成長を見れるのが何よりうれしく、いきがいとなっています。

●アンケート結果（保護者が感じる満足していることと課題に思っていること）

お子さんが通っている地域クラブで満足していること（複数回答可）



お子さんが通っている地域クラブで課題に思っていること（複数回答可）



2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料



【全種目全指導員対象のメンタルトレーニング講習会】



【ユニフォーム補助への感謝を胸に、中体連大会に出場】



【湯浅町マラソン大会に参加して、地域イベントに貢献】



【クリニックのお礼込めて、紀陽銀行ハートビーツの試合を応援】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年	令和6年			令和7年	令和8年
地域、体育協会と推進会議の開催	地域クラブ設立準備委員会設置規則の検討 試行種目の検討	地域クラブ活動の開始（剣道部）	総会、定期的な理事会の開催 試行種目の検討・随時開始（バスケ、野球）	学校部活動地域クラブ活動ガイドライン作成	平日の地域展開 休日種目の拡充

ASLEAD有田の設立（令和6年）

- **ステークホルダー**

ASLEAD有田　教育委員会（湯浅町・広川町）会員　指導員
中体連（大会に関わる関係団体）

- **経過**

- 地域における持続可能な部活動環境の構築を目的として、 ASLEAD有田を設立。
- 剣道・バスケットボール・野球の各種目で、代表指導員と複数指導員による指導体制を整備。
- 中体連大会への参加に向け、地域クラブとしての登録手続きや必要書類の整備を進めた。

- **実施にあたって生じた課題**

- 「地域移行」という新しい仕組みについて、生徒・保護者・指導者の理解を得るまでに時間を要した。
- 指導者の構成において、2校教職員以外の指導員が27%にとどまり、地域人材の確保が課題となった。
- 学校と地域クラブの役割分担や、安全管理の責任範囲について、現場での調整が必要であった。

- **実施内容、工夫した点 等**

- 生徒・保護者説明会の開催、中学校へのヒアリング、アンケート調査を実施し、関係者の不安や疑問を丁寧に把握・解消した。
- 理事会・総会の運営体制を整備し、意思決定の透明性と組織運営の安定化を図った。
- 指導者の兼職兼業に関する手続きを標準化し、学校と地域の連携が円滑に進む仕組みを構築した。

ASLEAD有田の設立（令和7年）

- **ステークホルダー**

ASLEAD有田・教育委員会（湯浅町・広川町）会員　指導員　中体連（大会に関わる関係団体）
先進地域（視察）

- **経過**

- 各種目の活動をより充実させるため、地域の指導者確保に重点的に取り組んだ。
- 活動内容や成果を広く共有するため、ASLEAD有田のホームページを開設し、情報発信を強化した。
- 平日の活動運用を見据え、各中学校との調整や、部活動地域展開の先進地域への視察を実施し、運営モデルの検討を深めた。

- **実施にあたって生じた課題**

- 平日運用に向けて、学校との役割分担や安全管理の整理が必要であり、調整に時間を要した。
- 指導者確保において、地域人材の発掘・育成が継続的な課題となった。
- 中体連登録に向けた手続きや基準の確認など、地域クラブとしての大会参加に関する調整事項が多かった。

- **実施内容、工夫した点 等**

- 指導者候補者への働きかけや、教員・地域団体からの推薦を通じて、地域指導者の確保を強化した。
- ホームページを活用し、活動の様子・大会結果・体験会情報などを発信することで、地域クラブの認知向上と保護者の理解促進を図った。
- 中体連登録に向けて、必要な書類整備や学校との連携を進め、大会参加に向けた体制を構築した。
- 先進地域への視察を通じて、平日運用の方法や安全管理の仕組みを学び、自地域に適した運営モデルの検討に活かした。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

